２学年通信

五所川原高校
令和７年３月号

卒業式を終えて

３月２日に三年生が五所川原高校から巣立って行きました。卒業式での皆さんの態度や歌声は素晴らしく、卒業生にとっては思い出に残る忘れられない時間になったと思います。数年ぶりに旧職員や近隣の中学校の校長先生が来賓として参列してくださいましたが、多くの方から良い卒業式であったと褒めていただきました。先輩の卒業を心から祝う気持ちが校歌から伝わってきたと言われ、私も嬉しい気持ちになりました。式歌練習の時は少し物足りないと思っていましたが、皆さんは練習と本番の違いを理解しているはずだと考え、やり直しをさせませんでした。大切なときに全力を出し切ることができる。皆さんの底力を確認することができ、とても誇らしい気持ちになりました。

最高学年としての覚悟をもって

昨年度も今年度も、HR活動の中で１、２学年交流の時間を企画しました。その中で「五所川原高校のDNA として新入生へ伝えたいこと」を話し合ってもらったのですが覚えていますか。１年の時はどんな先輩と何を話しましたか。また、今年度はどんな後輩と何を話しましたか。そこで話し合ったことを最高学年の一人として後輩へ伝える責任をどのように果たしますか。高校生としてまだまだ未熟だった入学当初、気づいていなかったとは思いますが、先輩方から多くの手助けや優しさを受けて皆さんは中学生から五所川原高校の一員へと成長していきました。それはまるで親が子の至らなさを全て受け入れつつ愛情をもって育てていく様子にも似ています。これまで先輩から受けた手助けや優しさに感謝しつつ、次は４月に入学してくる新入生へ還元してください。そして力を合わせて地域の中心校である五所川原高校を発展させて欲しいと思っています。

卒業生の進学先が決定しました

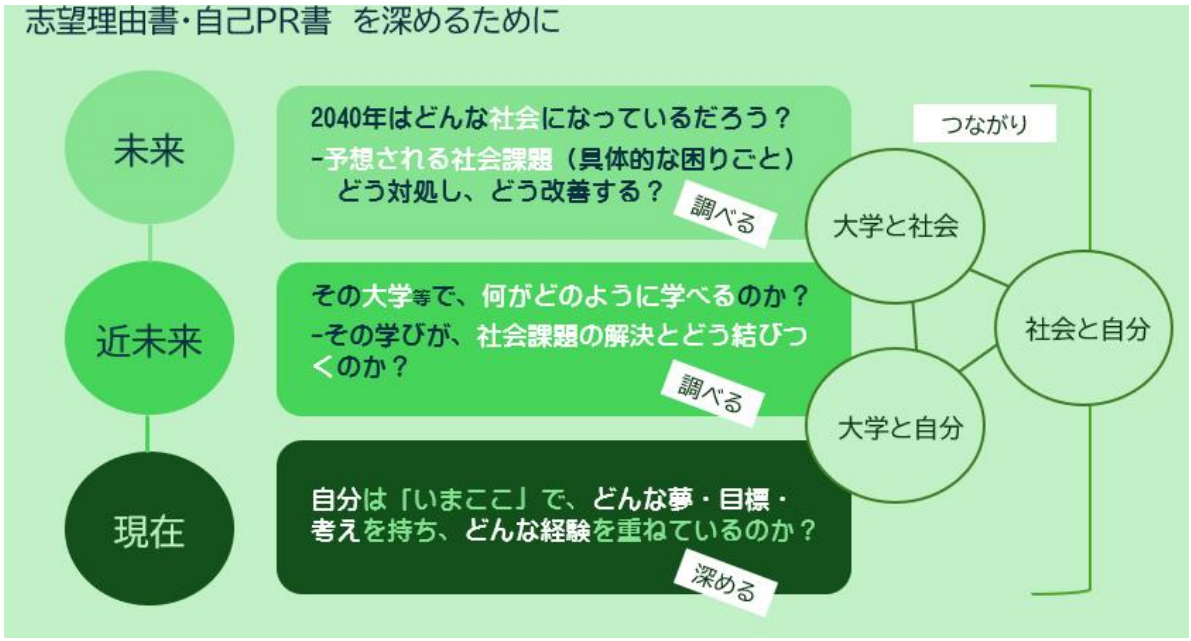
○大学進学に関しては「努力は間違いなく報われる」

「夢は叶う」「努力は報われる」と学校教育ではよく言われますが、これは、半分は正しくて半分は嘘だと思います。「努力は報われないことの方が多いが努力しなければ何も得られない」これはある程度正しいと思います。しかし、何も努力せずとも何かを得ている人もいますし、もしかすると社会に出ると努力は報われないことの方が多いのかもしれません。（そもそも努力が報われた状態がどのような状態なのかは本人の哲学の深さと価値観によるものでしょう。）しかし、大学進学に関しては、努力は間違いなく報われます。特に今年度の傾向を分析すると県内国公立と北海道国公立については粘って頑張り通した人の多くが報われています。高校入学時の成績が下位だった人の中からも多くの人が進路希望を叶えています。少子化の今、大学進学に関しては「努力は間違いなく報われる」と少々しつこいですがお伝えします。

○努力が報われるとはどのような状態なのだろうか。

本格的に受験勉強を開始している（する）皆さんにとっては「勉強を頑張ったら志望大学に合格した。」は努力が報われた状態として間違ってはいません。「部活動を頑張ったら総体で入賞した。」これも間違いなく努力が報われたということです。しかし、ここで少し考えて欲しいのは「努力はお金とは違う」ということです。（当たり前だと言わずにもう少しお付き合いください）努力もお金も「払う」ことができるので似ていますが、お金の特徴は払うとその金額に応じた何かをすぐに手に入れることができます。しかし努力は払ってもその努力に応じた何かをすぐには手に入れられない（報われない）ことが多いのです。では、なぜ努力するのか。先日とある人物と努力について問答したのですが、およそ意見は一致しました。その人物曰く「**真の努力とは一時的なマイナスの結果などで消え去ったりはしない。**なぜなら努力という自己探究の営みは、必ず何かしらの水脈に当たるからだ。それは意図したものではないかもしれないが、それに価値を見いだせるのであれば、それが良い結果（報われるということ）なのだと思う」私が皆さんにここで伝えたかったことを端的に表現してもらいました。

点数のために、偏差値のために、寝食を忘れるがごとくもがきながらも、人生について考え続けることはやめないで欲しいと願っています。



○「社会課題を解決したい」という決意を持っている人が求められている

年末に実施した志望理由書の業者添削を経て、次は志望大学の様式に合わせた志望理由書の作成に着手していることと思います。以前からお伝えしているとおり、受験であっても就職試験であっても「なぜこの大学（会社）にはいりたいのか？」は最も重要な部分です。

上の図は志望理由書を深めるための考え方をまとめたものです。最上位に来るのは「未来に予想される社会課題を解決したい」という決意です。「決意があるからこの大学に入って学びたいのです。」という図式になります。

○決意を持っている人だと証明できますか

例えばあなたが面接官だとして受験者に自己 PR をさせた時に、「私は誰にでも優しく接することができます」と言った A さんと、「私は小さい頃から目の悪い祖母の足の爪を定期的に切ってあげていて、その経験からボランティアで老人施設を訪問した際にも多くの高齢者の方と自然に接することができました」と言った B さんであれば、どちらが優しい人だと感じますか。おそらくBさんに一票を投じるのではないでしょうか。**実際に行動した人にしか語ることのできない事実があるのかどうか**で全く印象が違いますよね。

体育教師を例にしてみます

未 来：2040年は生成AI等の技術のさらなる発達によって、自宅に居ながらスマホ等の端末を活用して仕事や家事、娯楽等、多くの事ができてしまう社会となる。そのため、外に出歩く機会が今以上に少なくなることで、運動不足による疾病の増加が危惧される。このことを防止するためには運動と健康を関連付けて考えるリテラシーと実際に運動を好んで行う行動力を多くの国民に身につけさせる事が今以上に重要となる

近未来：上記の課題を解決するため、体育教師となって国民のリテラシーと行動力を高めたいと考えている。○○大学体育学部体育学科の下山研究室では国民の体育リテラシーを高めるための実践例を研究し、最先端の手法を開発しているため、この大学でこの部分も含めて多くのことを学び国民の健康の保持増進に寄与できる人材となりたい。

現 在：総合的な探究の時間に五所川原市民の運動に対する意識と運動時間を調査し、年齢層と性別に分けて傾向をつかもうとした。また、他県で同様の調査をしている行政機関にお願いして最新のデータをいただいた。探究を深める中で読んだ○○教授の著書「ニッポンの運動と健康」には「健康リテラシーを高めるためには高等学校の授業内容の改善が必要」だと書かれていたのが印象に残っている。